



# Linux\* 版インテル® Fortran コンパイラ・オプション・ク イック・リファレンス・ガイド

## 免責条項

© 2004, Intel Corporation.

資料番号: 253258-002J

## 免責条項

### 【輸出規制に関する告知と注意事項】

本資料に掲載されている製品のうち、外国為替および外国為替管理法に定める戦略物資等または役務に該当するものについては、輸出または再輸出する場合、同法に基づく日本政府の輸出許可が必要です。また、米国産品である当社製品は日本からの輸出または再輸出に際し、原則として米国政府の事前許可が必要です。

### 【資料内容に関する注意事項】

本ドキュメントの内容を予告なしに変更することがあります。

インテルでは、この資料に掲載された内容について、市販製品に使用した場合の保証あるいは特別な目的に合うことの保証等は、いかなる場合についてもいたしかねます。また、このドキュメント内の誤りについても責任を負いかねる場合があります。

インテルでは、インテル製品の内部回路以外の使用にて責任を負いません。また、外部回路の特許についても関知いたしません。

本書の情報はインテル製品を使用できるようにする目的でのみ記載されています。

インテルは、製品について「取引条件」で提示されている場合を除き、インテル製品の販売や使用に関して、いかなる特許または著作権の侵害をも含み、あらゆる責任を負わないものとします。

本書に含まれている内容は、出荷時の内容を正確に著すよう記述されていますが、製品の不具合の発見とその改良に伴い、製品および本書の内容は予告なく変更される場合があります。現在報告されているソフトウェアの不具合につきましては、お問い合わせください。

いかなる形および方法によっても、インテルの文書による許可なく、この資料の一部またはすべてを複製することは禁じられています。

著作権法で許可されている場合を除き、文書による事前の許可なく、複製、改変、または翻訳することを禁じます。無断転載を禁じます。

著作権制限：米国政府による使用、複製、または開示は、DFARS 252-227-7013 の条項「Rights in Technical Data and Computer Software」の副項 (c)(1)(ii) に規定されている制限を受けます。

非 DOD U.S. Government Departments and Agencies の権利は、FAR 52.227-19(c0(1,2)) に規定されています。

Intel、インテル、Celeron、Dialogic、iCOMP、Itanium、MMX、Pentium、i386、i486、Intel386、Intel486、Intel740、IntelDX2、IntelDX4、IntelSX2、Intel SpeedStep、Intel NetBurst、Intel XScale、NetStructure、Xeon、Centrino、VTune は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

\* その他の名称およびブランド名は、各社の商標および登録商標です。

© 2004, Intel Corporation.

## 目次

免責条項 .....	i
本書の使い方 .....	1
表記規則 .....	1
新しいコンパイラ・オプション .....	3
クイック・リファレンス・ガイド (アルファベット順) .....	5
コンパイラ・オプションの対応表 .....	43
サポートされなくなったコンパイラ・オプション .....	63
索引 .....	64

## 本書の使い方

インテル® Fortran コンパイラ・オプション・クイック・リファレンス・ガイドには、以下の情報が含まれています。

- 本リリースの新しいコンパイラ・オプション
- すべてのオプションのリスト (アルファベット順)
- Windows\* と Linux\* コンパイラ・オプションの対応表

各コンパイラ・オプションについての詳細は、『インテル® Fortran コンパイラ・ユーザーズ・ガイド』の Vol. I と Vol. II および `ifort` の `man` ページを参照してください。

このガイドで説明されているコンパイラ・オプションは、特に明記されている場合を除いて、IA-32 およびインテル® Itanium® プロセッサの両方で利用可能です。

### 表記規則

"デフォルト" 欄のオン	コンパイラが起動される際に、オプションがデフォルトで有効になっていることを示します。値を指定してオンの状態にする場合は、その値を括弧で示します。
"デフォルト" 欄のオフ	コンパイラが起動される際に、オプションがデフォルトで無効になっていることを示します。値を指定してオフの状態にする場合は、その値を括弧で示します。
<i>this type style</i>	斜体のモノスペース・フォントで表記されているテキストは、ユーザの入力個所を示します。また、新しい用語が使われた場合にも、その用語を斜体で表記します。 例えば、 <code>-Qoption, str, opts</code> オプションは、コマンドラインで次のように指定されます。 <code>ifort -Qoption, link, -w myprog.f</code>
{value   value}	中括弧と縦線は、複数の項目の選択を示します。すべての項目が大括弧で囲まれていない限りは、項目から 1 つを選択しなければなりません。
-option parameter	オプションにパラメータが必要なことを示します。例えば、 <code>-Ldir</code> の <code>-L</code> オプションは、 <code>dir</code> 内でライブラリを検索するようにリンクに指示します。
-option keyword	オプションに、 <code>keyword</code> 値を 1 つ指定する必要があることを示します。
-option [keyword]	オプションに、 <code>keyword</code> 値を指定できることを示します。
-option [n]	[ ] 内の値にさまざまな値を指定するか、または省略することができます。例えば、 <code>-unroll [n]</code> オプションの場合

	合、 $n$ に0以上の値を指定するか、または省略することができます。
-option[-]	オプションの最後に "-" が付いている場合、オプションは無効になります。例えば、-ansi_alias- は -ansi_alias オプションを無効にします。
- [no]option	オプションの前に "no" が付いている場合、オプションは無効になります。例えば、- [no] altparam の場合、- altparam はオプションを有効にし、-noaltparam はオプションを無効にします。  注 [no]option は、option のアルファベット順に記載されています。

## 新しいコンパイラ・オプション

次の表は、本リリースの新しいオプションをリストしています。

次のラベルが示されたコンパイラ・オプションは、特定のシステムでのみ利用可能で  
ず。

ラベル	意味
i32	IA-32 ベース・システムで利用可能なオプションです。
i32em	インテル® エクステンデッド・メモリ 64 テクノロジ (インテル® EM64T) 対応の IA-32 ベース・システムで利用可能なオプションです。
i64	Itanium® ベース・システムで利用可能なオプションです。

ラベルがない場合、そのオプションはすべてのサポートされているシステムで利用可能  
です。

ラベルに "のみ" とある場合、そのオプションはラベルで示されたシステムでのみ利用  
可能です。

各オプションについての詳細は、『インテル® Fortran コンパイラ・ユーザーズ・ガイド』  
の Vol. I と Vol. II および `ifort` の `man` ページを参照してください。

この表で使用されている表記については、「[表記規則](#)」を参照してください。

オプション	説明	デフォルト
<code>-debug keyword</code>	デバッグを拡張する設定を指定します ( <code>-g</code> が必要です)。 <code>keyword: variable_locations</code>	オフ
<code>-IPF_fp_relaxed</code> (i64 のみ)	<code>divide</code> や <code>sqrt</code> のような数学関数について、より高速で少し精度が低いコード・シーケンスを使用します。厳密な IEEE* 精度と比較した場合、このオプションを使用すると、関数で実行される浮動小数点計算の精度が少し低くなります (通常は、最下位の桁に制限されます)。	オフ
<code>-ipo [n]</code>	<code>n</code> はコンパイラが作成するオブジェクト・ファイルの数を指定するオプションの整数です。デフォルトでは、少なくとも 1 つのオブジェクト・ファイルが作成されます。	オフ

<code>-ipo_separate</code>	ソース・ファイルごとに1つのオブジェクト・ファイルを生成するようにコンパイラに指示します。このオプションは、 <code>-ipon</code> オプションよりも優先されます。	オフ
<code>-openmp_profile</code>	OpenMP* アプリケーションの解析を有効にします。 このオプションを使用するには、インテル® スレッド化ツールの1つである、スレッド・プロファイラがインストールされている必要があります。スレッド化ツールがインストールされていない場合、このオプションは効果がありません。	オフ
<code>-tcheck</code>	マルチスレッド・アプリケーションの解析を有効にします。 このオプションを使用するには、インテル・スレッド化ツールの1つである、インテル® スレッド・チェッカーがインストールされている必要があります。スレッド化ツールがインストールされていない場合、このオプションは効果がありません。	オフ

## クイック・リファレンス・ガイド (アルファベット順)

次の表は、コンパイルに使用できるオプションについて説明しています。各オプションについての詳細は、『インテル® Fortran コンパイラ・ユーザーズ・ガイド』の Vol. I と Vol. II および ifort の man ページを参照してください。

次のラベルが示されたコンパイラ・オプションは、特定のシステムでのみ利用可能です。

ラベル	意味
i32	IA-32 ベース・システムで利用可能なオプションです。
i32em	インテル® エクステンデッド・メモリ 64 テクノロジ (インテル® EM64T) 対応の IA-32 ベース・システムで利用可能なオプションです。
i64	Itanium® ベース・システムで利用可能なオプションです。

ラベルがない場合、そのオプションはすべてのサポートされているシステムで利用可能です。

ラベルに "のみ" とある場合、そのオプションはラベルで示されたシステムでのみ利用可能です。

このバージョンで追加されたオプションは、(\*新規) としてマークされています。機能の変更はない新規のキーワードが追加された場合、そのキーワード値の周辺にこのマークが表示されます。新規のキーワードによって機能が追加される場合は、このキーワードを持つオプションは別のエントリに配置され、(\*新規) としてマークされます。

この表で使用されている表記については、「[表記規則](#)」を参照してください。

オプション	説明	デフォルト
-1	DO ループの反復を少なくとも 1 回実行します (-onetrip オプションと同じです)。このオプションは、-f66 と同じ効果があります。	オフ
-66	FORTTRAN-66 セマンティクスを使用するようにコンパイラに指示します (-f66 オプションと同じです)。	-nof66
-72, -80, -132	各固定形式ソース行のステート	-72

	メント・フィールドの終点を、列番号 72、80、または 132 として処理します。オプション <code>-132</code> は、 <code>-extend_source</code> オプションと同じです。	
<code>-align keyword</code>	データ項目をアライメントする方法をコンパイラに指示します。 <i>keyword</i> : all, none, [no] commons, [no] dcommons, [no] records, recnbyte, [no] sequence これらのキーワードの詳細は、 <i>ユーザーズ・ガイド</i> または <i>ifort</i> の man ページを参照してください。	<code>-align</code> <code>nocommons</code> <code>-align</code> <code>nodcommons</code> <code>-align</code> <code>records</code> <code>-align</code> <code>nosequence</code>
<code>-ansi_alias-</code>	プログラムが Fortran 95 標準の別名規則に準拠していないと仮定するようにコンパイラに指示します。	<code>-ansi_alias</code>
<code>-arch keyword</code> (i32 のみ)	コンパイラが命令を生成するアーキテクチャのバージョンを決定します。 <i>keyword</i> : pn1 - インテル® Pentium® プロセッサ向けに最適化します。 pn2 - インテル Pentium Pro プロセッサ、インテル Pentium II プロセッサ、およびインテル Pentium III プロセッサ向けに最適化します。 pn3 - <code>-arch pn2</code> オプションを指定した場合と同じです。 pn4 - インテル Pentium 4 プロセッサ向けに最適化します。 SSE - ストリーミング SIMD 拡張命令 (SSE) をサポートするインテル Pentium 4 プロセッサ向けに最適化します。 SSE2 - ストリーミング SIMD 拡張命令 2 (SSE2) をサポートす	<code>-arch pn4</code>

	るインテル Pentium 4 プロセッサ向けに最適化します。	
-assume <i>keyword</i>	<p>コンパイラによって行われる仮定を指定します。</p> <p><i>keyword</i>: none, [no]bscc, [no]buffered io, [no]byterecl, [no]cc_omp, [no]dummy_aliases, [no]minus0, [no]protect_constants, [no]source include, [no]underscore</p> <p>-openmp が指定された場合、-assume cc_omp が設定されます。</p> <p>これらのキーワードの詳細は、ユーザズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。</p>	オフ (-assume none)
-auto	<p>SAVE として宣言されていない変数をランタイム・スタックに配置します (-automatic または -nosave と同じです)。</p> <p>-recursive または -openmp を指定した場合、デフォルトは -auto です。</p>	-auto_scalar
-auto ilp32 (i32em, i64)	<p>32 ビット・アドレス空間を超えることができない (32 ビット・ポインタを使用する) アプリケーションを指定します。このオプションを使用するには、-ipo も指定する必要があります。</p> <p>インテル EM64T システムでは、-xP または -axP も指定しない限り、このオプションは効果がありません。</p> <p>32 ビット・アドレス空間 (2**32) を超えることができるプログラムで -auto_ilp32 オプションを使用すると、プログラム実行</p>	オフ

	時に予期しない問題が発生することがあります。	
-auto scalar	INTEGER、REAL、COMPLEX、または LOGICAL 組み込み型のローカル・スカラー変数を、AUTOMATIC にします。このオプションと一緒に -save、-auto または -automatic を指定することはできません。	-recursive または -openmp が指定されていない限り オン
-autodouble	REAL 変数を REAL (KIND=8) として定義します。このオプションは、-r8 を指定するのと同じです。	オフ
-automatic	SAVE として宣言されていない変数をランタイム・スタックに配置します (-auto または -nosave と同じです)。 -recursive または -openmp を指定した場合、デフォルトは -auto です。	-auto scalar
-ax{K W N B P} (i32, i32em)	パフォーマンス上の利点がある場合、プロセッサ固有のコードを生成します。プロセッサの種類は以下の値のいずれか 1 つで示されます。  K - インテル Pentium III および互換性のあるインテル® プロセッサ。  W - インテル Pentium 4 プロセッサおよび互換性のあるインテル・プロセッサ。  N - インテル Pentium 4 プロセッサおよび互換性のあるインテル・プロセッサ。  B - インテル Pentium M プロセッサおよび互換性のあるイン	オフ

	<p>テル・プロセッサ。</p> <p>P - ストリーミング SIMD 拡張命令 3 (SSE3) をサポートするインテル Pentium 4 プロセッサ。</p> <p>インテル EM64T システムでは、-axP および -axW オプションのみ利用できます。</p> <p>詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。</p>	
-Bdynamic	ランタイム時にライブラリの動的リンクを有効にします。静的なリンクに比べ、実行ファイルは小さくなります。	オフ
-Bstatic	ユーザのライブラリとの静的リンクを有効にします。	オフ
-c	オブジェクト (.o) ファイルへのコンパイルのみ行い、リンクを行わないようにコンパイラに指示します。	オフ
-CB	配列の添字および部分文字列の参照が宣言された範囲内であることを確認するランタイム・チェックを行います。-check bounds オプションと同じです。	オフ
-ccdefault <i>keyword</i>	<p>ユニット 6 および * で使用されるキャリッジ制御の種類を指定します。</p> <p><i>keyword</i>: default, fortran, list, または none</p> <p>デフォルト設定は -vms オプションの影響を受ける場合があります。</p> <p>これらのキーワードの詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。</p>	-ccdefault default
-check <i>keyword</i>	ランタイム時の状態を確認しま	オフ (-nocheck)

	<p>す。</p> <p><i>keyword</i>: all, none, [no]arg_temp_created, [no]bounds, [no]format, [no]output_conversion これらのキーワードの詳細は、 ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照し てください。</p>	<p>または -check none)</p>
-cm	<p>問題のありそうなプログラミング に対するすべてのメッセージを 非表示にします (-warn nousage オプションと同じで す)。</p>	<p>オフ (-nocm)</p>
-common args	<p>プロシージャへの仮引数が他 の仮引数と、または参照結合、 ホスト結合、または共通ブロック を使用して共有した変数とメモ リ位置を共有していると仮定す るようにコンパイラに指示しま す。-assume dummy_aliases を指定した 場合と同じです。</p>	<p>オフ (-no common_args)</p>
-complex limited range [-]	<p>複素数のデータ・タイプを使用 するいくつかの算術演算で、基 本代数展開の使用を有効にし ます。このオプションを使用する と、複素数算術を多く使用する プログラムにおいてパフォーマンス が向上する場合があります。 ただし、指数範囲の極値が 正しく計算されない可能性があ ります。</p>	<p>オフ (-complex_ limited_ range-)</p>
-convert <i>keyword</i>	<p>数値データが含まれている書 式なしファイルの形式を指定し ます。</p> <p><i>keyword</i>: big_endian, cray, fdx, fgx, ibm, little_endian, native, vaxd, vaxg</p>	<p>-convert native</p>
-cpp	<p>コンパイル前に Fortran プリプ ロセッサをソース・ファイルで実</p>	<p>オフ (-nocpp)</p>

	行します (-fpp オプションと同じです)。	
-Dname -Dname [=value]	<i>name</i> を条件付きコンパイル・ディレクティブまたは Fortran プリプロセッサ (-fpp) で使用する定義として指定します。 <i>value</i> は整数、または二重引用符で区切られた文字列のいずれかです (例えば、-Dname="string")。定義がない場合、 <i>name</i> は "1" として定義されます。	オフ
-d lines	ソース・コードの列 1 の文字 D で示されたデバッグ文をコンパイルします。-DD を指定した場合と同じです。	オフ (-nod_lines)
-DD	ソース・コードの列 1 の文字 D で示されたデバッグ文をコンパイルします。-d_lines を指定した場合と同じです。	オフ
-debug <i>keyword</i> (*新規)	デバッグを拡張する設定を指定します。これらのオプションを使用するには、-g も指定する必要があります。 <i>keyword</i> : variable_locations このキーワードの詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。	オフ
-double_size <i>size</i>	DOUBLE PRECISION 型および DOUBLE COMPLEX 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数のサイズを定義します。 <i>size</i> は、64 または 128 のいずれかです。	-double_size 64
-dryrun	ドライバ・ツール・コマンドを表示します。ツールを実行しません。	オフ (-nodryrun)
-dynamic-linkerfile	デフォルト以外の <i>file</i> のダイナミック・リンクを指定します。	オフ
-dyncom "a,b,c"	ランタイムで指定された	オフ

	COMMON ブロックの動的割り当てを有効にします。引用符が必要です。	
-E	出力を stdout に送るように Fortran プリプロセッサに指示します。	オフ
-e90	非標準 Fortran 90 に対して、警告の代わりにエラーを表示します。	オフ
-e95	非標準 Fortran 95 に対して、警告の代わりにエラーを表示します。	オフ
-EP	#line ディレクティブを省略して、出力を stdout に送るように Fortran プリプロセッサに指示します。	オフ
-[no]error_limit n	コマンドラインで指定した 1 つのファイルで許容されるエラーまたは致命的なエラーの数の最大値を指定します。-noerror_limit を指定すると、許容されるエラーの数に制限はありません。	-error_limit 30
-extend_source [size]	固定形式ソース・ファイルのステートメント・フィールドの終点を制御するために、列番号を指定します。 <i>size</i> は、72、80、または 132 のいずれかです。 -noextend_source を指定すると、列のサイズは 72 です。 -extend_source をサイズ ( <i>size</i> ) なしで指定すると、-extend_source 132 を指定した場合と同じになります。	オフ (-noextend_source)
-F	出力をファイルに送るように Fortran プリプロセッサに指示します (-preprocess_only および -P オプションと同じです)。このオプションを使用するには、-fpp も指定する必要があります。	オフ

	あります。	
-f66	FORTRAN-66 セマンティクスを使用するようにコンパイラに指示します。デフォルトの場合、Fortran 95 セマンティクスが使用されます。 詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。	オフ (-nof66)
-f77rtl	インテル Fortran の代わりに FORTRAN 77 のランタイム動作を使用するようにコンパイラに指示します。 詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。	オフ (-nof77rtl)
-fast	プログラム全体の速度を最大限にします。  Itanium ベース・システムでは、-O3、-ipo、および -static オプションが設定されます。IA-32 システムおよびインテル EM64T システムでは、-O3、-ipo、-static、および -xP オプションが設定されます。  IA-32 システムでは、-xP オプション付きでコンパイルされたプログラムは非互換のプロセッサを検出し、実行時にエラー・メッセージを出力する点に注意してください。	オフ (-nofast)
-fcode_asm	オプションのマシン・コード注釈を含むアセンブリ・ファイルを生成します。このオプションを使用するには、-s も指定する必要があります。	オフ
-FI	ソース・ファイルが固定形式であることを指定します (-fixed オプションと同じです)。	オフ

-fixed	ソース・ファイルが固定形式であることを指定します (-FI オプションと同じです)。デフォルトでは、ソース・ファイルの形式はファイル・サフィックスによって決定されます。	オフ
-fltconsistency	浮動小数点の一貫性を向上させます。デフォルト設定では、浮動小数点数の結果の一貫性が多少損なわれますが、精度とランタイム・パフォーマンスが向上します。 詳細は、ユーザズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。	オフ (-no fltconsistency)
-fminshared	コンパイル単位をメイン・プログラムのコンポーネントとして処理し、共有可能なオブジェクトの一部としてリンクしないように指定します。	オフ
-fno-alias	プログラム内のエイリアシングを仮定しないように指定します。	-falias
-fno-fnalias	関数内のエイリアシングを仮定しないで、複数の呼び出しにわたるエイリアシングを仮定するように指定します。	-ffnalias
-fnsplit (i64 のみ)	-prof_use も指定されている場合に関数分割を有効にします。指定されていない場合、デフォルト値ではルーチン内の分割は無効になりますが、関数のグループ化は有効なままです。	オフ (-fnsplit-)
-fp (i32, i32em)	EBP レジスタを汎用レジスタではなくスタック・フレーム・プリンタとして使用できるようにします。	オフ (-fp-)
-fp port (i32 のみ)	浮動小数点演算の後に、浮動小数点の結果を丸めます。そのため、代入時と型変換時にユーザが宣言した精度に丸め	オフ

	<p>られます。速度に多少影響があります。</p> <p>デフォルトでは、浮動小数点演算の結果を高精度で維持します。これにより、浮動小数点演算の結果の一貫性が多少損なわれますが、より良いパフォーマンスを得ることができます。</p>	
-fpconstant	<p>倍精度変数に代入された単精度定数のために、精度を倍精度に拡張するようにコンパイラに指示します。</p>	オフ(-nofpconstant)
-fpen	<p>メイン・プログラムのランタイム時の浮動小数点例外処理を制御します。<i>n</i> は、0、1、または3のいずれかです。</p> <p>0 - 浮動小数点アンダーフローの結果をゼロに設定します。他の浮動小数点例外は、実行を終了します。</p> <p>1 - 浮動小数点アンダーフローの結果をゼロに設定します。他の浮動小数点例外は、例外値(符号付き無限大または NaN)を生成して、実行を続けます。</p> <p>3 - すべての浮動小数点例外は、例外値(符号付き無限大、デノーマル、または NaN)を生成して、実行を続けます。-ftz も参照してください。</p>	-fpe3
-fpic	<p>位置に依存しないコードを生成します。-fPIC として指定することもできます。</p> <p>Itanium ベース・システムで共有オブジェクトをビルドする場合、このオプションを必ず使用する必要があります。</p>	オフ
-fpp	<p>コンパイル前にソース・ファイルで Fortran プリプロセッサを実行します。</p>	オフ
-fpscomp [keyword]	<p>Microsoft* Fortran</p>	all および

	<p>PowerStation またはインテル Fortran との互換性のレベルを指定します。</p> <p>keyword: all, none, [no] filesfromcmd, [no] general, [no] ioformat, [no] libs, [no] ldio_spacing, [no] logicals</p> <p>これらのキーワードの詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。</p>	<p>nolib:</p> <p>-fpscomp libs</p> <p>その他:</p> <p>-fpscomp none</p>
-fpstkchk (i32 のみ)	<p>FP (浮動小数点) スタックが予測された状態であることを保証するためにすべての関数呼び出しの後に補足コードを生成します。デフォルトでは、チェックは行われません。</p> <p>詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。</p>	オフ
-FR	<p>ソース・ファイルが自由形式であることを指定します (-free オプションと同じです)。</p>	ソース・ファイルの拡張子に基づきます。
-fr32 (i64 only)	<p>上位の浮動小数点レジスタの使用を無効にします。浮動小数点レジスタのうち下位 32 個だけを使用します。</p>	オフ
-free	<p>ソース・ファイルが自由形式であることを指定します (-FR オプションと同じです)。デフォルトでは、ソース・ファイルの形式はファイル・サフィックスによって決定されます。</p>	オフ
-fsource_asm	<p>オプションのマシン・コード注釈を含むアセンブリ・ファイルを生成します。このオプションを使用するには、-s も指定する必要があります。</p>	オフ
-ftz	<p>浮動小数点アンダーフローの結果をゼロに設定します。</p>	オフ (-ftz-)

	Itanium ベース・システムでは、 -O3 オプションを指定すると - ftz オプションが設定されま す。	
-fverbose-asm	コンパイラ注釈を含むアセンブ リ・ファイルを生成します。コン パイラ注釈には、オプションや バージョン情報などが含まれて います。このオプションを使用 するには、-fverbose-asm を設定する -s オプションも指 定する必要があります。-s を 指定するときに、このデフォルト 設定を適用したくない場合は - fnoverbose-asm を指定しま す。	オフ (-fnoverbose- asm)
- fvisibility=keywo rd -fvisibility- keyword =file	最初の形式は、グローバル・シ ンボルのデフォルトの可視属性 を指定します。  2 番目の形式は、ファイル内に あるシンボルの可視属性を指 定します (この形式は最初の形 式よりも優先されます)。 <i>file</i> は、設定するシンボルの リストを含むファイルのパス名 です。シンボルは、空白 (空白、 タブ、改行) で区切られます。  <i>keyword</i> : external, default, protected, hidden, and internal これらのキーワードの詳細は、 ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照し てください。	オフ
-g	シンボリック・デバッグ情報をオ ブジェクト・ファイル内に生成し ます。このコンパイラでは、アセ ンブリ・ファイル中にデバッグ情 報を生成できません。-g オプ ションを指定すれば、アセンブ	オフ

	<p>リ・ファイルには含まれないデバッグ情報が、生成されるオブジェクト・ファイルには含まれることとなります。</p> <p>IA-32 システムでは、-g または -O0 オプションを指定すると、自動的に -fp オプションが有効になります。詳細は、『インテル® Fortran コンパイラ・ユーザーズ・ガイド Vol II』の「最適化とデバッグ」を参照してください。</p>	
-help	コンパイラ・オプションのリストを出力します。	オフ
-I <i>dir</i>	モジュール・ファイル (USE 文) およびインクルード・ファイル (INCLUDE 文) を検索するディレクトリを、インクルード・パスに追加します。	オフ
-i dynamic	インテルのライブラリを動的にリンクします。	オフ
-i{2 4 8}	整数および論理変数のデフォルトのサイズを 2、4、または 8 バイトに指定します (-integer size {16 32 64} と同じです)。	-integer size 32
-implicitnone	変数のデフォルト型を未定義 (IMPLICIT NONE) に設定します。-u オプションと同じです。	オフ
-inline_debug_info	インライン・コードの拡張ソース位置情報を出力します。関数呼び出しのトレースバックに役立つ拡張デバッグ情報も提供します。デバッグ用にこのオプションを使用するには、-g も指定する必要があります。	オフ
-intconstant	Fortran 95/90 セマンティクスではなく、FORTRAN 77 セマンティクスを使用して整数定数の KIND を決定するようにコンパ	オフ (-no intconstant)

	イラに指示します。	
-integer_size <i>size</i>	整数および論理変数のデフォルトのサイズを指定します。 <i>size</i> は、16、32、または 64 のいずれかです。	-integer size 32
-ip	単一ファイルのプロシージャ間の最適化を有効にします。このオプションを指定すると、コンパイラは現在のソース・ファイル内で定義されている関数への呼び出しについて関数のインライン展開を実行します。	オフ
-ip no inlining	-ip によって有効にされた全体または部分的なインライン展開を無効にします。このオプションを使用するには、-ip または -ipo を指定する必要があります。	オフ
-ip no pinlining	部分的なインライン展開を無効にします。このオプションを使用するには、-ip または -ipo を指定する必要があります。	オフ
-IPF fltacc (i64 のみ)	浮動小数点の精度に影響を与える最適化を無効にします。デフォルト設定では、コンパイラは浮動小数点の精度を低下する最適化を適用する場合があります。-IPF_fltacc または -mp を使用して浮動小数点の精度を高める場合、いくつかの最適化を無効にしなければなりません。	オフ (-IPF_fltacc-)
-IPF flt eval method0 (i64 のみ)	プログラムで宣言された変数型によって指定された精度で、浮動小数点式の演算子に関する表現を評価するようにコンパイラに指示します。デフォルトでは、中間浮動小数点式は高い精度で保たれます。	オフ
-IPF fma (i64 のみ)	浮動小数点乗算と加算/減算の組み合わせを有効にします。ま	オフ (-IPF_fma-)

	た、浮動小数点積和/積差演算を1つの演算命令で行うことを有効にします。コンパイラは可能な限り、これらの演算を縮約します。しかし、 <code>-mp</code> が指定されると、これらの縮約は無効になります。	
<code>-IPF fp relaxed</code> (*新規) (i64 のみ)	<code>divide</code> や <code>sqrt</code> のような数学関数について、より高速で少し精度が低いコード・シーケンスを使用します。厳密な IEEE* 精度と比較した場合、このオプションを使用すると、関数で実行される浮動小数点計算の精度が少し低くなります (通常は、最下位の桁に制限されます)。	オフ ( <code>-IPF fp relaxed-</code> )
<code>-IPF fp speculation mode</code> (i64 のみ)	次のいずれかのモード (mode) で、浮動小数点演算のスペキュレーションを設定します。 <i>fast</i> : 浮動小数点演算をスペキュレーションします。 <i>safe</i> : 安全な場合のみ浮動小数点演算のスペキュレーションを有効にします。 <i>strict</i> : <i>off</i> を指定した場合と同じです。 <i>off</i> : 浮動小数点演算のスペキュレーションを無効にします。	<code>-IPF fp speculation fast</code>
<code>-ipo [n]</code>	(ファイル間の) マルチファイル IPO を有効にします。このオプションを指定すると、コンパイラは別々のファイル内で定義されている関数への呼び出しについて関数のインライン展開を実行します。  <code>n</code> はコンパイラが作成するオブジェクト・ファイルの数を指定するオプションの整数です。0 以上のすべての整数が有効で	オフ

	<p>す。</p> <p><math>n</math> が 0 の場合、コンパイラはオブジェクト・ファイルの推定サイズに基づいて 1 つ以上のオブジェクト・ファイルを作成するかどうかを決定します。小さなアプリケーションでは 1 つのオブジェクト・ファイルを、大きなアプリケーションでは 2 つ以上のオブジェクト・ファイルを生成します。</p> <p><math>n</math> が 1 以上の場合、コンパイラは <math>n</math> 個のオブジェクト・ファイルを生成します。ただし、<math>n</math> がソース・ファイルの数 (<math>m</math>) よりも大きな場合、コンパイラは <math>m</math> 個のオブジェクト・ファイルしか生成しません。</p> <p><math>n</math> を指定しない場合、デフォルトは 1 です。</p>	
-ipo c	後のリンク段階で利用できるマルチファイル・オブジェクト・ファイル (ipo_out.o) を生成します。	オフ
-ipo_obj	実際のオブジェクト・ファイルを生成します。このオプションを使用するには、-ipo を指定する必要があります。	オフ (-ipo_obj-
-ipo S	後のリンク段階で利用できるマルチファイル・アセンブリ・ファイル (ipo_out.s) を生成します。	オフ
-ipo separate (*新規)	ソース・ファイルごとに 1 つのオブジェクト・ファイルを生成するようにコンパイラに指示します。このオプションは、-ipon オプションよりも優先されます。	オフ
-ivdep parallel (i64 のみ)	IVDEP ディレクティブの後の	オフ

	ループにループ・キャリー・メモリ依存がないことをコンパイラに通知します。	
-Kpic	これは古いオプションです。-KPIC として指定することもできます。このオプションの代わりに -fpic を使用してください。	オフ
-Ldir	標準ディレクトリを検索する前に、 <i>dir</i> 内のライブラリを検索するようにリンクに指示します。	オフ
-lowercase	識別子内の大文字・小文字の違いを無視し、外部名を小文字に変換するようにコンパイラに指示します (-names lowercase オプションと同じです)。	オン
-logo	コンパイラのバージョン情報を表示します。	オフ (-nologo)
-mixed str len arg	文字引数の隠された文字長を、引数リストの対応する文字引数の直後に配置するようにコンパイラに指示します。デフォルトでは、隠された文字長は、引数リストの終わりにシーケンシャル順で配置されます。	オフ (-no mixed_str_len_arg)
-module dir	モジュール・ファイル (ファイル拡張子は .mod) を作成したときに、格納したり、(USE 文で) 検索したりするディレクトリ ( <i>dir</i> ) を指定します。	オフ
-mp	浮動小数点の精度を維持します (一部の最適化を無効にする必要があります)。精度は宣言された水準が保たれます。また、浮動小数点演算の処理は、ANSI* および IEEE 標準にほぼ準拠する結果となります。  このオプションは、ほとんどのプログラムのパフォーマンスに不利に働きます。目的のアプリ	オフ

	<p>ケーションにこのオプションが必要かどうかよくわからない場合は、このオプションを指定した場合と指定しない場合で実際にプログラムをコンパイルし、実行して、パフォーマンスと精度に対する効果を評価してみてください。</p>	
-mp1	<p>浮動小数点の精度を向上します。このオプションは、-mp よりも禁止される最適化処理が少なく、パフォーマンスに与える影響も小さくなります。</p>	オフ
-names <i>keyword</i>	<p>ソースコード識別子と外部名をどのように解釈するかを指定します。 <i>keyword</i>: as_is, lowercase, uppercase これらのキーワードの詳細は、<i>ユーザーズ・ガイド</i>または <i>ifort</i> の man ページを参照してください。</p>	-names lowercase
-nbs	<p>バックスラッシュ文字をエスケープ文字ではなく、通常の文字として処理するようにコンパイラに指示します (-assume nobsc オプションと同じです)。</p>	オン
-no_cpprt	<p>C++ ランタイム・ライブラリをリンクしないようにします。</p>	オフ
-noalign	<p>データ項目のアライメントを抑制します。-align none を指定した場合と同じです。</p>	オフ (-align)
-noaltparam	<p>パラメータ定数宣言の代替形式を識別しないように指定します。</p>	オフ (-altparam)
-nobss_init	<p>明示的にゼロに初期化される変数を DATA セクションに配置します。デフォルトでは、明示的にゼロに初期化される変数は BSS セクションに配置されます。</p>	オフ
-nodefaultlibs	<p>リンク時に標準ライブラリを使用しないようにします。</p>	オフ

-nodefine	すべてのプリプロセッサ定義を -fpp のみに適用し、インテル Fortran の条件付きコンパイル・ディレクティブに適用しないように指定します。	オフ
-nodps	パラメータ定数宣言 (括弧なし) の代替形式を識別しないように指定します (-noaltparam オプションと同じです)。	オフ (-dps)
-nofor_main	メイン・プログラムが Fortran で記述されていない場合に指定し、for_main.o をアプリケーションにリンクしないようにコンパイラに指示します。	オフ (-for_main)
-noinclude	INCLUDE 文で指定されたファイルを /usr/include で検索しないようにします。このオプションは -I $dir$ オプションと一緒に指定できます。このオプションは、cpp (1) 動作に影響を与えません。また、Fortran 95 および Fortran 90 の USE 文とも関係ありません。	オフ
-nolib_inline	組み込み関数のインライン展開を無効にします。	オフ
-nostartfiles	リンク時に標準起動ファイルを使用しないようにコンパイラに指示します。	オフ
-nostdinc	インクルード・ファイルの検索パスから標準ディレクトリを除外します (-X オプションと同じです)。	オフ
-nostdlib	リンク時に標準ライブラリおよび標準起動ファイルを使用しないようにコンパイラに指示します。	オフ
-nus	ユーザ定義の外部名に下線文字を追加しないようにコンパイラに指示します。 このオプションは、-assume underscore オプションと同じで、-us オプションと逆です。	オン
-oname	出力ファイルの名前 ( $name$ ) を	オフ

	<p>次のように指定します。</p> <p>-c が指定されている場合、-o はオブジェクト・ファイルの名前を指定します。</p> <p>-s が指定されている場合、-o はアセンブリ・リスト・ファイルの名前を指定します。</p> <p>上記以外の場合、-o は実行ファイルの名前を指定します。</p>	
-O0	-On で指定した最適化を無効にします。IA-32 システムおよびインテル EM64T システムでは、このオプションを指定すると -fp オプションが設定されます。	オフ
-O1	<p>IA-32 システムおよびインテル EM64T システムでは、速度の最適化を有効にします。組み込み関数の認識と -fp オプションを無効にします。このオプションは、-O2 オプションと同じです。</p> <p>Itanium ベース・システムでは、サーバ・アプリケーションの最適化を有効にします (フラット・プロファイルの直列型コードおよび分岐型コード)。速度の最適化を有効にし、コードサイズも抑えるようにします。例えば、このオプションを使用すると、ソフトウェアのパイプライン化とループのアンロールが無効になります。</p>	オフ
-O2 または -O	<p>デフォルトの最適化オプションです。ただし、-g が指定されている場合、-O0 がデフォルトになります。</p> <p>IA-32 システムおよびインテル EM64T システムでは、このオプションは -O1 オプションと同じです。</p>	オン

	<p>Itanium ベース・システムでは、 -O2 オプションはグローバル・コード・スケジューリング、ソフトウェアのパイプライン化、プレディケーション、およびスペキュレーションを含む速度の最適化を有効にします。</p> <p>これらのシステム上では、組み込み関数のインライン展開が有効になります。また、パフォーマンスの向上のために次の機能も有効にします: 定数伝播、コピー伝播、不要コードの排除、グローバル・レジスタ割り当て、グローバル命令スケジューリング、スペキュレーション・コントロール、ループのアンロール、コード選択の最適化、部分冗長の排除、ストレンクス・レダクション/誘導変数の簡略化、変数名の変更、例外処理の最適化、末端再帰、ピープホールの最適化、構造体代入の低下および最適化、不要ストアの排除の各機能が使用されます。</p>	
-O3	<p>-O2 の最適化に加えて、プリフェッチ、スカラ置換、およびループ変換などのより強力な最適化を有効にします。最大実行速度に最適化を行いますが、ループ変換およびメモリアクセス変換が行われない限り、パフォーマンスが向上しない場合があります。</p> <p>IA-32 システムおよびインテル EM64T システムで -O3 オプションを -ax および -x オプションと組み合わせて使用すると、-O2 よりも詳細にデータの依存性を分析します。そのた</p>	オフ

	<p>め、コンパイル時間が長くなる場合があります。</p> <p>Itanium ベース・システムでは、 -O3 オプションは技術計算を行うアプリケーション (ループを多用するコード) の最適化、つまりループとデータ・プリフェッチの最適化を有効にします。</p>	
-onetrip	<p>DO ループの反復を少なくとも 1 回実行します (-1 オプションと同じです)。このオプションは、-f66 と同じ効果があります。</p>	オフ
-openmp	<p>パラライザが OpenMP* デイレクティブに基づいてマルチスレッド・コードを生成できるようにします。このコードは、単一プロセッサ・システムとマルチプロセッサ・システムの両方で並列実行が可能です。</p> <p>-openmp オプションは、-O0 (最適化なし) と任意の最適化レベル -On で動作します。</p> <p>-openmp と -O0 を指定すると、OpenMP アプリケーションのデバッグに役立ちます。</p>	オフ
-openmp profile (*新規)	<p>OpenMP アプリケーションの解析を有効にします。</p> <p>このオプションを使用するには、インテル® スレッド化ツールの 1 つである、スレッド・プロファイラがインストールされている必要があります。スレッド化ツールがインストールされていない場合、このオプションは効果がありません。</p>	オフ
-openmp report [n]	<p>OpenMP パラライザの診断メッセージのレベルを制御します。<i>n</i> は、0、1、または 2 のいずれかです。</p> <p>0 - 診断情報を表示しません。</p>	-openmp_report1

	<p>1 - 正常に並列化されたループ、領域、およびセクションを示す診断を表示します。</p> <p>2 - <code>-openmp_report1</code> の診断に加えて、正常に処理された MASTER 構造、SINGLE 構造、CRITICAL 構造、ORDERED 構造、ATOMIC ディレクティブなどを示す診断を表示します。</p>	
<code>-openmp stubs</code>	シーケンシャル・コードを生成するようにコンパイラに指示します。OpenMP ディレクティブは無視され、スタブ OpenMP ライブラリがリンクされます。	オフ
<code>-opt_report</code>	最適化レポートを生成して <code>stderr</code> に送るようにコンパイラに指示します。	オフ
<code>-opt_report file file</code>	最適化レポートを生成して名前を <code>file</code> にするようにコンパイラに指示します。	オフ
<code>-opt_report_help</code>	レポートの作成に利用可能な最適化機構の論理名をリストします ( <code>-opt_report_phase</code> 用)。	オフ
<code>-opt_report level level</code>	最適化レポートの詳細レベルを指定します。 <code>level</code> は <code>min</code> 、 <code>med</code> 、または <code>max</code> のいずれかです。	<code>-opt_report levelmin</code>
<code>-opt_report phasephase</code>	<p>レポートを生成する最適化フェーズを指定します。コンパイラは <code>phase</code> で指定した最適化機構のレポートを生成します。複数の最適化機構のレポートを作成するために同じコマンドライン上に複数回、オプションを使用できます。現在、次の最適化機構レポートがサポートされています。</p> <p><code>ipo</code> • プロシージャ間の最適化</p>	オフ

	<p>機構</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>hlo • 高レベル最適化機構</li> <li>ilo • 中間言語スカラ最適化機構</li> <li>ecg • コード・ジェネレータ</li> <li>omp • Open MP</li> <li>all • すべてのフェーズ</li> </ul> <p>上記の最適化機構の論理名の1つが <i>phase</i> で指定されると、その最適化機構からのすべてのレポートが作成されます。</p>	
- opt report routine [substring]	指定した <i>substring</i> を含むルーチンのレポートを作成します。 <i>substring</i> が指定されていない場合、すべてのルーチンからのレポートが作成されます。	オフ
-p	gprof(1) を使用して、関数のプロファイリングができるようにコンパイルとリンクを行います。 <i>-pg</i> または <i>-qp</i> を指定した場合と同じです。	オフ
-P	出力をファイルに送るように Fortran プリプロセッサに指示します ( <i>-preprocess_only</i> および <i>-F</i> オプションと同じです)。このオプションを使用するには、 <i>-fpp</i> も指定する必要があります。	オフ
-pad	変数と配列のメモリ・レイアウトの変更を有効にします。	オフ (-nopad)
-pad_source	ステートメント・フィールドの幅より短い固定形式のソース・レコードに対して、スペースをステートメント・フィールドの終わりに追加するように指定します。このオプションは、複数のソース・レコードにわたって続く文字リテラルと Hollerith リテラルの解釈に影響を与えます。	オフ (-no pad_source)

-par_report [n]	<p>OpenMP パラライザの診断メッセージのレベルを制御します。<i>n</i> は、0、1、2、または 3 のいずれかです。</p> <p>0 - 診断情報を表示しません。  1 - ループが正常に自動並列化されたことを示す診断メッセージを表示します。並列ループに対して "LOOP AUTO-PARALLELIZED" メッセージを出力します。  2 - ループが正常に自動並列化されたこと、および不正に自動並列化されたことを示す診断メッセージを表示します。  3 - -par_report2 での診断メッセージと、自動並列化を妨げている実証された依存および推測された依存に関する追加情報 (並列化されない理由) を表示します。</p>	-par_report1
-par_thresholdn	<p>並列でのループの実行が効果的である可能性に基づいてループの自動並列化のしきい値を設定します。このオプションは、コンパイル時に計算量が確定できないループに使用します。しきい値は、通常、ループ反復回数がコンパイル時に不明なときに関係します。<i>n</i> は、0 から 100 です。コンパイラは、作成された複数のスレッドのオーバーヘッドとスレッド間を共有できるワーク量のバランスをとろうとするヒューリスティックを適用します。</p>	-par_threshold 100
-parallel	<p>並列で安全に実行できるループのマルチスレッド・コードを生成するように自動パラライザに指示します。このオプションを使</p>	オフ

	用するには、-O2 または -O3 も指定する必要があります。	
-pcn (i32, i32em)	<p>浮動小数点の仮数部の精度を制御できるようにします。浮動小数点アルゴリズムの中には、浮動小数点値の仮数部または小数部の精度に影響を受けやすいものがあります。例えば、除算や平方根の計算のように反復処理が多いものは、-pcn を使用して精度を下げると計算が速くなる場合があります。</p> <p>n は 32、64、または 80 のいずれかです。</p> <p>32 - 仮数部を 24 ビットに丸めます</p> <p>64 - 仮数部を 53 ビットに丸めます</p> <p>80 - 仮数部を 64 ビットに丸めます</p>	-pc64
-pg	gprof(1) を使用して、関数のプロファイリングができるようにコンパイルとリンクを行います。これは -p または -qp を指定するのと同じです。	オフ
-prec div (i32, i32em)	<p>浮動小数点除算の精度を上げます。速度に多少影響します。-xK や -xWなどを指定して最適化する場合、コンパイラは浮動小数点の除算を分母の逆数による乗算に変更します。例えば、<math>A/B</math> を <math>A * (1/B)</math> として計算して計算速度を上げます。ただし、B が 2126 より大きい場合は <math>1/B</math> の値が 0 になります。</p> <p><math>1/B</math> の値を維持しなければならない場合は、-prec_div を使用して、浮動小数点の除算を乗算に変換する最適化処理を禁</p>	オフ

	止してください。-prec_div を指定すると、精度は上がりますが、若干パフォーマンスが落ちます。	
-prefetch- (i32 のみ)	プリフェッチ挿入による最適化を有効にします。このオプションを使用するには、-O3 も指定する必要があります。	オフ (-prefetch)
-preprocess only	出力をファイルに送るように Fortran プリプロセッサに指示します (-F および -P オプションと同じです)。このオプションを使用するには、-fpp も指定する必要があります。	オフ
-prof dirdir	出力ファイル (*.dyn および *.dpi) のプロファイリングに使用するディレクトリ (dir) を指定します。	オフ
-prof filefile	プロファイリング・サマリ・ファイルのファイル名 (file) を指定します。	オフ
-prof format_32 (i32, i64)	32 ビット・カウンタ付きのプロファイル・データを生成します。また、以前のバージョンのコンパイラとの互換性を維持します。デフォルトでは、64 ビット・カウンタ付きのプロファイル・データを生成して、多くのイベントを処理します。	オフ
-prof gen	プロファイリング用にプログラムをインストルメントします。	オフ
-prof_use	最適化中にプロファイリング情報が使用できるようにします。	オフ
-Qinstalldir	コンパイラのインストール先のルート・ディレクトリとして dir を設定します。	オフ
-Qlocation, str, dir	str で指定したツールの場所として dir を設定します。	オフ
-Qoption, str, opts	str で指定したツールにオプション (opts) を渡します。ツールには fpp、f、c、link、asm	オフ

	(IA-32 システム)、 <code>ias</code> (Itanium ベース・システム) を指定できます。	
<code>-gp</code>	<code>gprof(1)</code> を使用して、関数のプロファイリングができるようにコンパイルとリンクを行います。 <code>-p</code> または <code>-pg</code> を指定した場合と同じです。	オフ
<code>-r8</code>	REAL 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数を DOUBLE PRECISION REAL*8 として定義し、COMPLEX 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数を DOUBLE COMPLEX (COMPLEX*16) として定義します。このオプションは、 <code>-real_size 64</code> または <code>-autodouble</code> を指定するのと同じです。	オフ
<code>-r16</code>	REAL 型および DOUBLE PRECISION 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数を REAL*16 として定義し、COMPLEX 型および DOUBLE COMPLEX 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数を COMPLEX*32 として定義します。このオプションは、 <code>-real_size 128</code> を指定するのと同じです。	オフ
<code>-rcd</code> (i32 のみ)	浮動小数点から整数への変換を高速にします。 浮動小数点数から整数への変換を含むすべての浮動小数点計算において、丸めモードから切り捨てモードへの変更を無効にします。このオプションを指定するとパフォーマンスは改善されるかもしれませんが、浮動小数点から整数への変換処理に	オフ

	<p>については Fortran 言語のセマンティクスに適合しなくなります。</p> <p>詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。</p>	
-real size <i>size</i>	<p>REAL および COMPLEX 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数のサイズを定義します。<i>size</i> は、32、64、または 128 のいずれかです。</p>	-real size 32
-recursive	<p>再帰的な実行が行われる可能性を念頭に置いて、すべてのルーチンをコンパイルするように指定します。このオプションは -auto オプションを設定します。</p>	オフ(- norecursive)
-reentrancy <i>keyword</i>	<p>マルチスレッド・アプリケーションをサポートする再入力可能コードを生成するようにコンパイラに指示します。</p> <p><i>keyword</i>: none, threaded, async</p> <p>これらのキーワードの詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。</p>	オフ (-reentrancy none)
-S	<p>アセンブリ (.s) ファイルへのコンパイルのみ行い、リンクを行わないようにコンパイラに指示します。</p>	オフ
-safe cray ptr	<p>CRAY* ポインタが他の変数とエイリアスしないように指定します。</p>	オフ
-save	<p>AUTOMATIC として宣言されていない変数を静的メモリに格納します (-noauto または -noautomatic と同じです)。</p> <p>-recursive または -openmp を指定した場合、デフォルトは -auto です。</p>	オフ(- auto_scalar)

-scalar_rep (i32 のみ)	ループ変換中に実行されるスカ ラ置換を有効にします。このオ プションを使用するには、-O3 も指定する必要があります。	オフ(- scalar_rep-)
-shared	実行ファイルの代わりに、動的 共有オブジェクト (DSO) をビル ドするようにコンパイラに指示し ます。 Itanium ベース・システムでは、 共有ライブラリに含める各オブ ジェクト・ファイルをコンパイル する際に -fpic オプションを 指定する必要があります。	オフ
-shared-libcxa	インテルの libcxa C++ ライ ブラリを動的にリンクし、- static を使用している場合に デフォルト動作を上書きします。 このオプションは、-static- libcxa の逆の効果が得られ ます。	オン
-sox[-] (i32, i32em)	コンパイラ・オプションとバージョ ンを実行ファイルに保存するよ うにコンパイラに指示します。	オフ (-sox-)
-stand [keyword]	非標準の言語要素を発見した ときにメッセージを発行するよ うにコンパイラに指示します。 keyword: f90, f95, none これらのキーワードの詳細は、 ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照し てください。	オフ (-stand none)
-static	共有ライブラリとリンクしないよ うにします。ライブラリをすべて 静的にリンクします。	オフ
-static-libcxa	インテルの libcxa C++ ライ ブラリを静的にリンクします。 このオプションは、-shared- libcxa の逆の効果が得られ ます。	オフ
-std90	Fortran 90 に準拠していない 言語要素を発見したときにメッ	オフ

	セージを発行するようにコンパイラに指示します (-stand f90 オプションと同じです)。	
-std95 または -std	Fortran 95 に準拠していない言語要素を発見したときにメッセージを発行するようにコンパイラに指示します (-stand f95 オプションと同じです)。このオプションは、-warn stderrors を指定した場合に設定されます。	オフ
-syntax_only	ソース・ファイルの正しい構文のみをチェックするように指定します (-syntax および -y オプションと同じです)。コードおよびオブジェクト・ファイルは生成されません。また、最適化機構によって行われたエラー・チェックは無視します。このオプションを使用すると、迅速にソース・ファイルの構文チェックを行うことができます。	オフ (-no syntax_only)
-T file	指定した file からリンク・コマンドを読むようにリンクに指示します。	オフ
-tcheck (*新規)	マルチスレッド・アプリケーションの解析を有効にします。このオプションを使用するには、インテル・スレッド化ツールの 1 つである、インテル® スレッド・チェッカーがインストールされている必要があります。スレッド化ツールがインストールされていない場合、このオプションは効果がありません。	オフ
-Tffile	file を Fortran ソース・ファイルとしてコンパイルするように指示します。非標準のサフィックスを含むファイルがある場合、このオプションは役立ちます。	オフ
-threads	マルチスレッド・ライブラリをリン	オフ

	クするように指定します。このオプションは <code>-reentrancy</code> オプションを設定します。	<code>(-nothreads)</code>
<code>-tpp{1 2}</code> (i64 のみ)	<code>-tpp1</code> - インテル Itanium プロセッサ向けに最適化します。 <code>-tpp2</code> - インテル Itanium 2 プロセッサ向けに最適化します。	<code>-tpp2</code>
<code>-tpp{5 6 7}</code> (i32, i32em)	<code>-tpp5</code> - インテル Pentium プロセッサ向けに最適化します。 <code>-tpp6</code> - インテル Pentium Pro プロセッサ、インテル Pentium II プロセッサ、およびインテル Pentium III プロセッサ向けに最適化します。 <code>-tpp7</code> - インテル Pentium 4 プロセッサ、インテル® Xeon™ プロセッサ、インテル Pentium M プロセッサ、およびストリーミング SIMD 拡張命令 3 (SSE3) をサポートするインテル Pentium 4 プロセッサ向けに最適化します。  インテル EM64T システムでは、 <code>-tpp7</code> オプションのみ利用できます。	<code>-tpp7</code>
<code>-traceback</code>	ランタイム時に重大なエラーが発生したとき、ソース・ファイルのトレースバック情報を表示できるように、オブジェクト・ファイル内に補足情報を生成するようにコンパイラに指示します。	オフ( <code>-notraceback</code> )
<code>-tune keyword</code> (i32 のみ)	コンパイラが命令を生成するアーキテクチャのバージョンを決定します。 <i>keyword</i> : <code>pn1</code> - インテル Pentium プロセッサ向けに最適化します。 <code>pn2</code> - インテル Pentium Pro プロセッサ、インテル Pentium II プロセッサ、およびインテル Pentium III プロセッサ向けに	<code>-tune pn4</code>

	最適化します。 pn3 - インテル Pentium Pro プロセッサ、インテル Pentium II プロセッサ、およびインテル Pentium III プロセッサ向けに最適化します。これは <code>-tune pn2</code> オプションを指定するのと同じです。 pn4 - インテル Pentium 4 プロセッサ向けに最適化します。	
<code>-u</code>	変数のデフォルト型を未定義 (IMPLICIT NONE) に設定します。これは <code>-implicitnone</code> オプションを指定するのと同じです。	オン
<code>-Uname</code>	事前定義済みマクロ <code>name</code> を削除します。	オフ
<code>-unroll [n]</code>	ループのアンロール回数の上限を設定します。 <code>n=0</code> ( <code>-unroll0</code> ) は、ループのアンロールを無効にします。 <code>n</code> を省略すると、コンパイラはデフォルトのヒューリスティックを使用します。 Itanium ベース・システムでは、コンパイラは現在 <code>n=0</code> のみを認識します。その他の値は無視されます。	<code>-unroll</code>
<code>-uppercase</code>	識別子内の大文字・小文字の違いを無視し、外部名を大文字に変換するようにコンパイラに指示します ( <code>-names uppercase</code> オプションと同じです)。	オフ ( <code>-lowercase</code> または <code>-names lowercase</code> )
<code>-us</code>	ユーザ定義の外部名に下線文字を追加するようにコンパイラに指示します。 このオプションは、 <code>-assume underscore</code> オプションと同じで、 <code>-nus</code> オプションと逆です。	オフ
<code>-use_asm</code>	アセンブラからオブジェクト・ファ	オフ

	イルを生成するようにコンパイラに指示します。	
-V	コンパイラのバージョン情報を表示します。	オフ
-v	ツール・コマンドを表示し、実行するようにドライバに指示します。	オフ
-vec report [n] (i32, i32em)	ベクトライザの診断情報の量を指定します。n は 1、2、3、4、または 5 のいずれかです。 0 - 診断情報を表示しません 1 - ベクトル化ループを示します 2 - ベクトル化および非ベクトル化ループを示します 3 - ベクトル化および非ベクトル化ループを示し、データの依存関係の情報を抑止します 4 - 非ベクトル化ループを示します 5 - 非ベクトル化ループを示し、データの依存関係の情報を抑止します。	-vec_report1
-vms	ランタイム・システムで、OpenVMS* Alpha システムおよび VAX* システム (VAX FORTRAN*) 上の HP* Fortran のような動作を行います。 このオプションの影響についての詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。	オフ
-w	すべての警告メッセージを無効にします (-nowarn および -warn nogeneral オプションと同じです)。	オフ
-Wn	警告メッセージの表示を無効 (n=0) または有効 (n=1) にします。 -W1 は、-warn general を指定するのと同じです。	-W1

	-W0 は、-warn nogeneral、-nowarn、または -w を指定するのと同じです。	
-w90 または -w95	Fortran 95 で推奨されない、または使用されていない Fortran 機能に関する警告メッセージを抑制します。	オフ
-warn keyword	コンパイラによって発行される警告メッセージのレベルを指定します。 keyword: all, none, [no] alignments, [no] declarations, [no] errors, [no] general, [no] ignore_loc, [no] stderrs, [no] truncated_source, [no] uncalled, [no] unused, [no] usage これらのキーワードの詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。	オフ (-warn none または -nowarn)
-what	Fortran コマンドとコンパイラのバージョン文字列を表示します。	オフ
-Wl o1 [, o2, ...]	リンカに -o1、-o2、その他のオプションを渡します。	オフ
-Wp o1 [, o2, ...]	プリプロセッサに -o1、-o2、その他のオプションを渡します。	オフ
-X	インクルード・ファイルの検索パスから標準ディレクトリを除外します (-nostdinc オプションと同じです)。 -X オプションと -I オプションを併用すると、インクルード・ファイルのデフォルトのパスではなく別のパスを検索するようにコンパイラに指示できます。	オフ
-x{K W N B P}	プログラムを実行するプロセッ	オフ

(i32, i32em)	<p>サ専用の最適化されたコードを生成します。プロセッサの種類は以下の値のいずれか 1 つで示されます。</p> <p>K - インテル Pentium III および互換性のあるインテル・プロセッサ。</p> <p>W - インテル Pentium 4 プロセッサおよび互換性のあるインテル・プロセッサ。</p> <p>N - インテル Pentium 4 プロセッサおよび互換性のあるインテル・プロセッサ。</p> <p>B - インテル Pentium M プロセッサおよび互換性のあるインテル・プロセッサ。</p> <p>P - ストリーミング SIMD 拡張命令 3 (SSE3) をサポートするインテル Pentium 4 プロセッサ。</p> <p>-xN、-xB、または -xP オプションを使用してメイン・プログラムをコンパイルすると、プログラムは互換性のないプロセッサを検出して、実行時に致命的なエラーのメッセージを出力します。</p> <p>これらのオプションは、インテル・プロセッサ固有の最適化に加えて、新しい最適化も有効にします。</p> <p>インテル EM64T システムでは、-xP および -xW オプションのみ利用できます。</p>	
--------------	--	--

	詳細は、ユーザーズ・ガイドまたは ifort の man ページを参照してください。	
-Xlinker value	リンカに直接値 (value) を渡します。	オフ
-y	ソース・ファイルの正しい構文のみをチェックするように指定します (-syntax_only および -syntax オプションと同じです)。	オフ
-zero	INTEGER、REAL、COMPLEX、または LOGICAL 組み込み型のローカル・スカラー変数で、保存はされているがまだ初期化されていない変数を、すべてゼロに初期化します。すべてのローカル変数を SAVE としてマークするには、コマンドラインで -save を使用します。	オフ (-zero-)
-Zp [n]	レコードのフィールドおよび派生型のコンポーネントを、指定された境界またはそれらが自然にアライメントされる境界のうち、サイズがより小さくなる境界でアライメントします (-align recnbyte オプションと同じです)。n は、1、2、4、8、または 16 のいずれかです。n を指定しない場合、デフォルトの -Zp16 が使用されます。	-Zp16

## コンパイラ・オプションの対応表

このセクションでは、Windows\* および Linux\* オペレーティング・システム上で使用する Intel® Fortran コンパイラ・オプションの対応表を提供します。

次のラベルが示されたコンパイラ・オプションは、特定のシステムでのみ利用可能です。

ラベル	意味
i32	IA-32 ベース・システムで利用可能なオプションです。
i32em	Intel® エクステンデッド・メモリ 64 テクノロジー (Intel® EM64T) 対応の IA-32 ベース・システムで利用可能なオプションです。
i64	Itanium® ベース・システムで利用可能なオプションです。

ラベルがない場合、そのオプションはすべてのサポートされているシステムで利用可能です。

ラベルに "のみ" とある場合、そのオプションはラベルで示されたシステムでのみ利用可能です。

各オプションについての詳細は、[クイック・リファレンス・ガイド \(アルファベット順\)](#)、『Intel® Fortran コンパイラ・ユーザーズ・ガイド』の Vol. I と Vol. II および ifort の man ページを参照してください。Windows 版のコンパイラ・オプションについては、Windows 版 Intel Fortran コンパイラに含まれているドキュメントを参照してください。

この表は、Linux 版のコンパイラ・オプション ("Linux オプション" 欄) のアルファベット順で記載されています。

この表で使用されている表記については、「[表記規則](#)」を参照してください。

Linux オプション	Windows オプション	説明	デフォルト
-1	/1	DO ループの反復を少なくとも 1 回実行します。	オフ
-66	なし	FORTTRAN-66 セマンティクスを使用するようにコンパイラに指示します。	オフ
-72, -80, -132	/4L{72 80 132}	各固定形式ソース行のステートメント・フィールドの	-72 /4L72

		終点を、列番号 72、80、または 132 として処理します。	
-align keyword	/align:keyword	データ項目をアライメントする方法をコンパイラに指示します。	keyword: nocommons nodcommons records rec8byte nosequence
-ansi_alias[- ]	/Qansi_alias[-]	プログラムが Fortran 95 標準の別名規則に準拠していないと仮定するようにコンパイラに指示します。	オン
-arch keyword (i32 のみ)	/arch:keyword (i32 のみ)	コンパイラが命令を生成するアーキテクチャのバージョンを決定します。	keyword: pn4
-assume keyword	/assume:keyword	コンパイラによって行われる仮定を指定します。	オフ
-auto	/Qauto	SAVE として宣言されていない変数をランタイム・スタックに配置します。デフォルト設定は他のコンパイラ・オプションの影響を受けます。	オフ
-auto_ilp32 (i32em, i64)	/Qauto_ilp32 (i32em, i64)	32 ビット・アドレス空間を超えることができないアプリケーションを指定します。	オフ
-auto_scalar	/Qauto_scalar	INTEGER、REAL、COMPLEX、または LOGICAL 組み込み型のローカル・スカラー変数を、AUTOMATIC にします。デフォルト設定は他のコンパイラ・オプションの影響を受けます。	オン
-autodouble	/Qautodouble	REAL 変数を REAL (KIND=8) として定義します。	オフ
-automatic	/automatic	SAVE として宣言されてい	オフ

		ない変数をランタイム・スタックに配置します。	
-axp (i32, i32em)	/Qaxp (i32, i32em)	パフォーマンス上の利点がある場合、プロセッサ固有のコードを生成します。 <i>p</i> はプロセッサの種類を示します。	オフ
-Bdynamic	なし	ランタイム時にライブラリの動的リンクを有効にします。	オフ
-Bstatic	なし	ユーザのライブラリとの静的リンクを有効にします。	オフ
-c	/c	オブジェクト・ファイルへのコンパイルのみ行い、リンクを行わないようにコンパイラに指示します。	オフ
-CB	/CB	配列の添字および部分文字列の参照が宣言された範囲内であることを確認するランタイム・チェックを行います。	オフ
-ccdefault <i>keyword</i>	/ccdefault: <i>keyword</i>	ユニット 6 および * で使用されるキャリッジ制御の種類を指定します。 デフォルト設定は他のコンパイラ・オプションの影響を受けます。	<i>keyword</i> : default
-check <i>keyword</i>	/check: <i>keyword</i>	ランタイム時の状態を確認します。	オフ
-common_args	/Qcommon_args	プロシージャへの仮引数が他の仮引数と、または指定された COMMON 変数とメモリ位置を共有することをコンパイラに通知します。	オフ
-complex_limited_range	/Qcomplex_limited_range	複素数のデータ・タイプを使用するいくつかの算術演算で、基本代数展開の使用を有効にします。	オフ
-convert	/convert: <i>keyword</i>	数値データが含まれてい	オフ

<i>keyword</i>	<i>d</i>	る書式なしファイルの形式を指定します。	
-cpp	/Qcpp	コンパイル前にソース・ファイルで Fortran プリプロセッサを実行します。	オフ
-Dname [=value]	/Dname [=value]	条件付きコンパイル・ディレクティブまたは Fortran プリプロセッサで使用する定義として、 <i>name</i> およびオプションの <i>value</i> を定義します。	オフ
-d_lines	/d_lines	ソース・コードの列 1 の文字 <i>D</i> で示されたデバッグ文をコンパイルします。	オフ
-DD	/Qd_lines	ソース・コードの列 1 の文字 <i>D</i> で示されたデバッグ文をコンパイルします。	オフ
-debug <i>keyword</i>	なし	デバッグを拡張する設定を指定します。	オフ
-double_size <i>size</i>	/double_size: <i>size</i>	DOUBLE PRECISION 型および DOUBLE COMPLEX 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数のサイズを定義します。	<i>size</i> : 64
-dryrun	なし	ドライバ・ツール・コマンドを表示します。ツールを実行しません。	オフ
-dynamic -linkerfile	なし	デフォルト以外の <i>file</i> のダイナミック・リンクを指定します。	オフ
-dyncom "a,b,c"	/Qdyncom:A,B,C	ランタイムで指定された COMMON ブロックの動的割り当てを有効にします。	オフ
-E	/E	出力を stdout に送るように Fortran プリプロセッサに指示します。	オフ
-e95, -e90	/4Ys	非標準 Fortran 95 (-e95) または Fortran 90 (-e90)	オフ

コンパイラ・オプションの対応表

		に対して、警告の代わりにエラーを表示します。	
-EP	/EP	#line ディレクティブを省略して、出力を stdout に送るように Fortran プリプロセッサに指示します。	オフ
-error_limit n	/error_limit:n	コマンドラインで指定した1つのファイルで許容されるエラーまたは致命的なエラーの数の最大値を指定します。	n: 30
- extend_source size	/Qextend_source : size	固定形式ソース・ファイルのステートメント・フィールドの終点を制御するために、列番号を指定します。	size: 72
-F	なし	出力をファイルに送るように Fortran プリプロセッサに指示します (-fpp が必要です)。	オフ
-f66	/f66	FORTTRAN-66 セマンティクスを使用するようにコンパイラに指示します。	オフ
-f77rtl	/f77rtl	FORTTRAN 77 ランタイム動作を使用するようにコンパイラに指示します。	オフ
-fast	/fast	プログラム全体の速度を最大限にします。	オフ
-fcode-asm	/FAC	オプションのマシン・コード注釈を含むアセンブリ・ファイルを生成します。	オフ
-FI	/FI	ソース・ファイルが固定形式であること指定します。	ファイル・サフィックスによって決定されます
-fixed	/fixed	ソース・ファイルが固定形式であること指定します。	ファイル・サフィックスによって決定されます
- fltconsistenc	/fltconsistency	浮動小数点の一貫性を向	オフ

y		上させます。	
-fminshared	なし	コンパイル単位をメイン・プログラムのコンポーネントとして処理し、共有可能なオブジェクトの一部としてリンクしないように指定します。	オフ
-fno-alias	なし	プログラム内のエイリアシングを仮定しないように指定します。	-falias
-fno-fnalias	なし	関数内のエイリアシングを仮定しないで、複数の呼び出しにわたるエイリアシングを仮定するように指定します。	-ffnalias
-fnsplit (i64 のみ)	/Qfnsplit (i64 のみ)	関数分割を有効にします。	オフ
-fp (i32, i32em)	/Oy- (i32 のみ)	EBP レジスタを汎用レジスタではなくスタック・フレーム・プリンタとして使用できるようにします。	オフ
-fp_port (i32 のみ)	/Qfp_port (i32 のみ)	浮動小数点演算の後に、浮動小数点の結果を丸めます。そのため、代入時と型変換時にユーザが宣言した精度に丸められます。速度に多少影響があります。	オフ
-fpconstant	/fpconstant	倍精度変数に代入された単精度定数のために、精度を倍精度に拡張するようにコンパイラに指示します。	オフ
-fpen	/fpe:n	メイン・プログラムのランタイムの浮動小数点例外処理を指定します。	-fpe3 /fpe:3
-fpic, -fPIC	なし	位置に依存しないコードを生成します。	オフ
-fpp [n]	/Qfpp[:n]	コンパイル前にソース・ファイルで Fortran プリプロ	オフ

コンパイラ・オプションの対応表

		セツサを実行します。	
-fpscomp keyword	/fpscomp[:keyword]	Microsoft* Fortran PowerStation またはインテル Fortran との互換性のレベルを指定します。	keyword: libs
-fpstkchk (i32 のみ)	/Qfpstkchk (i32 のみ)	FP (浮動小数点) スタックが予測された状態であることを保証するためにすべての関数呼び出しの後に補足コードを生成します。	オフ
-FR	/FR	ソース・ファイルが自由形式であることを指定します。	ファイル・サフィックスによって決定されます
-fr32 (i64 のみ)	なし	上位の浮動小数点レジスタの使用を無効にします。	オフ
-free	/free	ソース・ファイルが自由形式であることを指定します。	ファイル・サフィックスによって決定されます
-fsource-asm	/FAs	オプションのソース・コード注釈を含むアセンブリ・ファイルを生成します。	オフ
-ftz	/Qftz	浮動小数点アンダーフローの結果をゼロに設定します。	オフ
-fverbose-asm	なし	コンパイラ注釈を含むアセンブリ・ファイルを生成します。コンパイラ注釈には、オプションやバージョン情報などが含まれています。	オフ
-fvisibility=keyword -fvisibility-keyword=file	なし	グローバル・シンボルのデフォルトの可視属性を指定します。2 番目の形式は、ファイル内にあるシンボルの可視属性を指定します。	オフ
-g	/Zi, /Z7	シンボリック・デバッグ情報をオブジェクト・ファイル内に生成します。	オフ

-help	/help	コンパイラ・オプションのリストを出力します。	オフ
-I <i>dir</i>	/I <i>dir</i>	コンパイラがライブラリやインクルード・ファイルを検索するディレクトリを指定します。	オフ
-i_dynamic	なし	インテルのライブラリを動的にリンクします。	オフ
-i{2 4 8}	/4I{2 4 8}	整数変数および定数のデフォルトの KIND を (バイト単位で) 定義します。	-i4 /4I4
-implicitnone	なし	変数のデフォルト型を未定義 (IMPLICIT NONE) に設定します。	オフ
-inline_debug_info	/Qinline_debug_info	インライン・コードの拡張ソース位置情報を出力します。	オフ
-intconstant	/intconstant	FORTTRAN 77 セマンティクスを使用して整数定数の KIND を決定するようにコンパイラに指示します。	オフ
-integer_size <i>size</i>	/integer_size: <i>size</i>	INTEGER および LOGICAL 型の変数のサイズを定義します。	<i>size</i> : 32
-ip	/Qip	単一ファイルのプロシージャ間の最適化を有効にします。	オフ
-ip_no_inlining	/Qip_no_inlining	-ip によって有効にされた全体または部分的なインライン展開を無効にします。	オフ
-ip_no_pinning	/Qip_no_pinning	部分的なインライン展開を無効にします。	オフ
-IPFflt_eval_method0 (i64 のみ)	/QIPFflt_eval_method0 (i64 のみ)	プログラムで宣言された変数型によって指定された精度で、浮動小数点式の演算子に関する表現を評価するようにコンパイラに指示します。	オフ
-IPFfltacc	/QIPFfltacc	浮動小数点の精度に影響	オフ

コンパイラ・オプションの対応表

(i64 のみ)	(i64 のみ)	を与える最適化を無効にします。	
-IPF_fma (i64 のみ)	/QIPF_fma (i64 のみ)	浮動小数点乗算と加算/減算の組み合わせを有効にします。 このオプションは他のコンパイラ・オプションの影響を受けます。	オフ
-IPF_fp_relaxed (i64 のみ)	/QIPF_fp_relaxed (i64 のみ)	divide や sqrt のような数学関数について、より高速で少し精度が低いコード・シーケンスを使用します。	オフ
-IPF_fp_speculationmode (i64 のみ)	/QIPF_fp_speculationmode (i64 のみ)	浮動小数点のスペキュレーションを有効または無効にします。	mode: fast
-ipo[n]	/Qipo[n]	ファイル間のマルチファイル IPO を有効にします。	オフ
-ipo_c	/Qipo_c	後のリンク段階で使用できるマルチファイル・オブジェクト・ファイルを生成します。	オフ
-ipo_obj	/Qipo_obj	実際のオブジェクト・ファイルを生成します。-ipo が 必要です。	オフ
-ipo_s	/Qipo_s	後のリンク段階で使用できるマルチファイル・アセンブリ・ファイルを生成します。	オフ
-ipo_separate	/Qipo_separate	ソース・ファイルごとに 1 つのオブジェクト・ファイルを生成します。	オフ
-ivdep_parallel (i64 のみ)	/Qivdep_parallel (i64 のみ)	IVDEP ディレクティブの後のループにループ・キャリー・メモリ依存がないことをコンパイラに通知します。	オフ
-Kpic, -KPIC	なし	これは古いオプションです。代わりに -fpic を使用してください。	オフ
-Ldir	なし	標準ディレクトリを検索す	オフ

		る前に、ライブラリを検索する場所をリンクに指示します。	
-lowercase	/Qlowercase	識別子内の大文字・小文字の違いを無視し、外部名を小文字に変換するようにコンパイラに指示します。	Linux: オン Windows: オフ
-logo	/logo	コンパイラのバージョン情報を表示します。	Linux: オフ Windows: オン
-mixed_str_len_arg	/iface:mixed_str_len_arg	文字引数の隠された文字長を、引数リストの対応する文字引数の直後に配置するようにコンパイラに指示します。	オフ
-module <i>dir</i>	/module: <i>path</i>	モジュール・ファイルを作成したときに、格納したり、検索したりするディレクトリを指定します。	オフ
-mp	/Op	一部の最適化を無効にして浮動小数点の精度を維持します。パフォーマンスに影響を与える場合があります。	オフ
-mp1	/Qprec	浮動小数点の精度を向上します。-mp よりも禁止される最適化処理が少なく、パフォーマンスに与える影響も小さくなります。	オフ
-names <i>keyword</i>	/names: <i>keyword</i>	ソースコード識別子と外部名をどのように解釈するかを指定します。	オフ
-nbs	/nbs	バックスラッシュ文字をエスケープ文字ではなく、通常の文字として処理するようにコンパイラに指示します。	オン
-no_cpprt	なし	C++ ランタイム・ライブラリをリンクしないようにします。	オフ

コンパイラ・オプションの対応表

-noalign	/align:none	データ項目のアライメントを抑制します。	オフ
-noaltparam	/noaltparam	パラメータ定数宣言 (括弧なし) の代替形式を識別しないように指定します。	オフ
-nobss_init	/Qnobss_init	明示的にゼロに初期化される変数を DATA セクションに配置します。	オフ
-nodefaultlibs	なし	リンク時に標準ライブラリを使用しないようにします。	オフ
-nodefine	/nodefine	すべてのプリプロセッサ定義を -fpp のみに適用し、条件付きコンパイル・ディレクティブに適用しないように指定します。	オフ
-nodps	/Qdps-	パラメータ定数宣言 (括弧なし) の代替形式を識別しないように指定します。	オフ
-nofor_main	なし	メイン・プログラムが Fortran で記述されていない場合に指定し、for_main.o をアプリケーションにリンクしないようにコンパイラに指示します。	オフ
-noinclude	/noinclude	INCLUDE 文で指定されたファイルをインクルード・パスに追加されたディレクトリで検索しないようにコンパイラに指示します。	オフ
-nolib_inline	/Oi-	組み込み関数のインライン展開を無効にします。	オフ
-nostartfiles	なし	リンク時に標準起動ファイルを使用しないようにコンパイラに指示します。	オフ
-nostdinc	なし	インクルード・ファイルの検索パスから標準ディレクトリを除外します	オフ

-nostdlib	なし	リンク時に標準ライブラリおよび標準起動ファイルを使用しないようにコンパイラに指示します。	オフ
-nus	なし	外部サブルーチン名に下線を追加しないようにします。	オン
-oname	なし	出力ファイルの名前を指定します。	オフ
-O0	/O0	-On で指定した最適化を無効にします。	オフ
-O1	/O1	IA-32 システムでは、速度の最適化を有効にします。Itanium ベース・システムでは、サーバ・アプリケーションの最適化、および速度の最適化を有効にし、コードサイズも抑えるようにします。	オフ
-O2	/O2	速度の最適化を有効にします。 デフォルト設定は他のコンパイラ・オプションの影響を受ける場合があります。	オン
-O3	/O3	-O2 の最適化に加えて、より強力な最適化を有効にします。	オフ
-onetrip	/Qonetrip	DO ループの反復を少なくとも 1 回実行します。	オフ
-openmp	/Qopenmp	パラライザが OpenMP* ディレクティブに基づいてマルチスレッド・コードを生成できるようにします。	オフ
-openmp_profile	/Qopenmp_profile	OpenMP* アプリケーションの解析を有効にします。	オフ
-openmp_report [n]	/Qopenmp_reportn	OpenMP パラライザの診断メッセージのレベルを制御します。	n: 1
-openmp_stubs	/Qopenmp_stubs	シーケンシャル・コードを生	オフ

コンパイラ・オプションの対応表

		成するようにコンパイラに指示します。	
-opt_report	/Qopt_report	最適化レポートを生成して stderr に送るようにコンパイラに指示します。	オフ
-opt_report_filefile	/Qopt_report_filefile	最適化レポートを生成して名前を <i>file</i> にするようにコンパイラに指示します。	オフ
-opt_report_help	/Qopt_report_help	レポートの作成に利用可能な最適化機構の論理名をリストします (-opt_report_phase 用)。	オフ
-opt_report_levellevel	/Qopt_report_levellevel	最適化レポートの詳細レベルを指定します。	level: min
-opt_report_phasephase	/Qopt_report_phasephase	レポートを生成する最適化フェーズを指定します。	オフ
-opt_report_routine[routine]	/Qopt_report_routineroutine	指定したルーチン (routine) を含むルーチンのレポートを作成します。	オフ
-p	なし	gprof(1) を使用して、関数のプロファイリングができるようにコンパイルとリンクを行います。	オフ
-P	/P	出力をファイルに送るように Fortran プリプロセッサに指示します (-fpp が必要です)。	オフ
-pad	/Qpad	変数と配列のメモリ・レイアウトの変更を有効にします。	オフ
-pad_source	/Qpad_source	ステートメント・フィールドの幅より短い固定形式のソース・レコードに対して、スペースをステートメント・フィールドの終わりに追加するように指定します。	オフ
-par_report [n]	Qpar_reportn	OpenMP パラライザの診断メッセージのレベルを	n: 1

		制御します。	
-par_threshold [n]	/Qpar_ threshold[:n] ま たは /Qpar_ threshold[n]	並列でのループの実行が効果的である可能性に基づいてループの自動並列化のしきい値を設定します。	n: 100
-parallel	/Qparallel	並列で安全に実行できるループのマルチスレッド・コードを生成するように自動パラライザに指示します。	オフ
-pcn (i32, i32em)	/Qpcn (i32 のみ)	浮動小数点の仮数部の精度を制御できるようにします。	n: 64
-pg	なし	gprof(1) を使用して、関数のプロファイリングができるようにコンパイルとリンクを行います。	オフ
-prec_div (i32, i32em)	/Qprec_div (i32, i32em)	浮動小数点除算から乗算へ変換する最適化処理を無効にして、より正確な除算結果を取得します。速度に多少影響します。	オフ
-prefetch- (i32 のみ)	/Qprefetch- (i32 のみ)	プリフェッチ挿入による最適化を無効にします。(-O3 が必要です)。	オフ
-preprocess_on ly	なし	出力をファイルに送るように Fortran プリプロセッサに指示します (-fpp が必要です)。	オフ
-prof_dir dir	/Qprof_dir dir	出力ファイル (*.dyn および *.dpi) のプロファイリングに使用するディレクトリを指定します。	オフ
-prof_file file	/Qprof_file file	プロファイリング・サマリ・ファイルのファイル名 (file) を指定します。	オフ
-prof_format_3 2	/Qprof_format_3 2 (i32, i64)	32 ビット・カウンタ付きのプロファイル・データを生成します。また、以前のバー	オフ

(i32, i64)		ジョンのコンパイラとの互換性を維持します。	
-prof_gen	/Qprof_gen	プロファイリング用にプログラムをインストルメントします。	オフ
-prof_use	/Qprof_use	最適化中にプロファイリング情報が使用できるようにします。	オフ
-Qinstalldir	なし	コンパイラのインストール先のルート・ディレクトリとして <i>dir</i> を設定します。	オフ
-Qlocation, str, dir	/Qlocation, tool, dir	指定したツール (str/tool) の場所としてディレクトリを設定します。	オフ
-Qoption, str, opts	/Qoption, tool, options	指定したツール (str/tool) にオプションを渡します。	オフ
-qp	なし	gprof(1) を使用して、関数のプロファイリングができるようにコンパイルとリンクを行います。	オフ
-r8	/4R8	REAL 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数を DOUBLE PRECISION (REAL*8) として定義し、COMPLEX 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数を DOUBLE COMPLEX (COMPLEX*16) として定義します。	オフ
-r16	/4R16	REAL 型および DOUBLE PRECISION 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数を REAL*16 として定義し、COMPLEX 型および DOUBLE COMPLEX 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数を COMPLEX*32 として定義します。	オフ

-rcd (i32 のみ)	/Qrcd (i32 のみ)	浮動小数点から整数への変換を高速にします。	オフ
-real size size	/real size:size	REAL および COMPLEX 型の宣言、定数、関数、および組み込み関数のサイズを定義します。	size: 32
-recursive	/recursive	再帰的な実行が行われる可能性を念頭に置いて、すべてのルーチンをコンパイルするように指定します。	オフ
-reentrancy keyword	/reentrancy:keyword	マルチスレッド・アプリケーションをサポートする再入力可能コードを生成するようにコンパイラに指示します。	オフ
-S	/S	アセンブリ (.s) ファイルへのコンパイルのみ行い、リンクを行わないようにコンパイラに指示します。	オフ
-safe_cray_ptr	/Qsafe_cray_ptr	Cray ポインタが他の変数とエイリアスしないように指定します。	オフ
-save	/Qsave	AUTOMATIC として宣言されていない変数を静的メモリに格納します。	オフ
-scalar_rep (i32 のみ)	/Qscalar_rep (i32 のみ)	ループ変換中に実行されるスカラ置換を有効にします (-O3 が必要です)。	オフ
-shared	なし	実行ファイルの代わりに、動的共有オブジェクトを生成するようコンパイラに指示します。	オフ
-shared-libcxa	なし	インテルの libcxa C++ ライブラリを動的にリンクします。	オフ
-sox (i32, i32em)	/Qsox (i32, i32em)	コンパイラ・オプションとバージョンを実行ファイルに保存するようコンパイラに指示します。	オフ

<code>-stand keyword</code>	<code>/stand:keyword</code>	非標準の言語要素を発見したときにメッセージを発行するようにコンパイラに指示します。	オフ
<code>-static</code>	<code>/static</code>	共有ライブラリとリンクしないようにします。ライブラリをすべて静的にリンクします。	オフ
<code>-static-libcxa</code>	なし	インテルの libcxa C++ ライブラリを静的にリンクします。	オフ
<code>-std90</code> または <code>-stand f90</code>	<code>/stand:f90</code>	Fortran 90 に準拠していない言語要素を発見したときにメッセージを発行するようにコンパイラに指示します。	オフ
<code>-std95</code> または <code>-std</code> または <code>-stand f95</code>	<code>/stand:f95</code>	Fortran 95 に準拠していない言語要素を発見したときにメッセージを発行するようにコンパイラに指示します。	オフ
<code>-syntax_only</code>	<code>/syntax_only</code>	ソース・ファイルの正しい構文のみをチェックするように指定します。	オフ
<code>-T file</code>	なし	指定した <i>file</i> からリンク・コマンドを読むようにリンクに指示します。	オフ
<code>-tcheck</code>	<code>/Qtcheck</code>	マルチスレッド・アプリケーションの解析を有効にします。	オフ
<code>-Tf file</code>	<code>/Tf file</code>	<i>file</i> を Fortran ソース・ファイルとしてコンパイルするように指示します。	オフ
<code>-threads</code>	<code>/threads</code>	マルチスレッド・ライブラリをリンクするように指定します。	オフ
<code>-tpp{1 2}</code> (i64 のみ)	<code>/G{1 2}</code> (i64 のみ)	特定のインテル® プロセッサ用に最適化します。	<code>-tpp2</code> <code>/G2</code>
<code>-tpp{5 6 7}</code> (i32, i32em)	<code>/G{5 6 7}</code> (i32, i32em)	特定のインテル プロセッサ	<code>-tpp7</code> <code>/G7</code>

		用に最適化します。	
-traceback	/traceback	ランタイム時に重大なエラーが発生したとき、ソース・ファイルのトレースバック情報を表示できるように、オブジェクト・ファイル内に補足情報を生成するようにコンパイラに指示します。	オフ
-tune <i>keyword</i> (i32 のみ)	なし	コンパイラが命令を生成するアーキテクチャのバージョンを決定します。	<i>keyword</i> : pn4
-u	なし	変数のデフォルト型を未定義 (IMPLICIT NONE) に設定します。	オフ
-U <i>name</i>	/U <i>name</i>	事前定義済みマクロ <i>name</i> を削除します。	オフ
-unroll [ <i>n</i> ]	/unroll[: <i>n</i> ]	ループのアンロール回数の上限を設定します。	オフ
-uppercase	/uppercase	識別子内の大文字・小文字の違いを無視し、外部名を大文字に変換するようにコンパイラに指示します。	Linux: オフ Windows: オン
-us	/us	ユーザ定義の外部名に下線文字を追加するようにコンパイラに指示します。	オフ
-use_asm	なし	アセンブラからオブジェクト・ファイルを生成するようにコンパイラに指示します。	オフ
-V	/logo	コンパイラのバージョン情報を表示します。	オフ
-v	なし	ツール・コマンドを表示し、実行するようにドライバに指示します。	オフ
- vec_report [ <i>n</i> ] (i32, i32em)	/Qvec_report [ <i>n</i> ] (i32, i32em)	ベクトライザの診断情報の量を指定します。	<i>n</i> : 1
-vms	/vms	ランタイム・システムで、OpenVMS* Alpha システ	オフ

コンパイラ・オプションの対応表

		ムおよび VAX* システム (VAX FORTRAN*) 上の HP* Fortran のような動作を行います。	
-w	/w	すべての警告メッセージを無効にします。	オフ
-Wn	/Wn	警告メッセージの表示を無効 ( $n=0$ ) または有効 ( $n=1$ ) にします。	n: 1
-w90 または -w95	/w90 または /w95	Fortran 95 で推奨されない、または使用されていない Fortran 機能に関する警告メッセージを抑止します。	オフ
-warn keyword	/warn:keyword	コンパイラによって発行される警告メッセージのレベルを指定します。	オフ
-what	/what	Fortran コマンドとコンパイラのバージョン文字列を表示します。	オフ
-Wl, o1[, o2, ...]	/link o1[, o2, ...]	リンクに -o1、-o2、その他のオプションを渡します。	オフ
-Wp, o1[, o2, ...]	/Qoption, fpp, o1[, o2, ...]	プリプロセッサに -o1、-o2、その他のオプションを渡します。	オフ
-X	/X	インクルード・ファイルの検索パスから標準ディレクトリを除外します	オフ
-xp (i32, i32em)	/Qxp (i32, i32em)	プログラムを実行するプロセッサで必要な最小セットのプロセッサ固有の命令を生成します。 <i>p</i> はプロセッサの種類を示します。	オフ
-Xlinker value	/link value	リンクに直接値 ( <i>value</i> ) を渡します。	オフ
-y	/Zs	ソース・ファイルの正しい構文のみをチェックするように指定します。	オフ

-zero	/Qzero	INTEGER、REAL、COMPLEX、または LOGICAL 組み込み型のローカル・スカラー変数で、保存はされているがまだ初期化されていない変数を、すべてゼロに初期化します。	オフ
-Zp [n]	/Zp [n]	レコードのフィールドおよび派生型のコンポーネントを、指定された境界またはそれらが自然にアライメントされる境界のうち、サイズがより小さくなる境界でアライメントします。	n: 8

## サポートされなくなったコンパイラ・オプション

このバージョンのインテル® Fortran コンパイラでは、次のコンパイラ・オプションをサポートしなくなりました。

- -axi
- -axM
- -xi
- -xM

## 索引

L	対応表 .....	44	
Linux* と Windows* オプション.....	44	オプションの対応表 .....	44
W		こ	
Windows* と Linux* オプション.....	44	コンパイラ・オプション	
お		アルファベット順.....	5
オプション		サポートされなくなったオプション	67
アルファベット順 .....	5	新しいオプション .....	4
サポートされなくなったオプション	.67	対応表 .....	44
概要 .....	2	ひ	
新しいオプション .....	4	表記規則 .....	2